インタビュー

印青連、科学技術館で「実験室」開講！

〝常識〟捨て印刷の可能性共創

都内11の印刷関連団体青年部で組織する印刷産業青年連絡協議会（印青連、茂木徳久会長）は1月24日㈯、科学技術館で「印刷実験室」を開催する。紙は何回折れるのか、インキでなく調味料で印刷するとどうなるか――と、オトナによるマジメな実験の一端がSNSに動画や写真で紹介されはじめ、話題となっている。当イベントを担当する、印青連ネットワーク委員長で正札青年部の竹岡慎一氏に意気込みを聞いた。（上田）

竹岡慎一ネットワーク委員長

――イベントの概要を

「〝商売忘れて印刷実験しようぜ！〟のコンセプトのもと実験（Experiment）・展示（Exhibition）・体験（Experience）の〝三つのE〟を通じて、日頃慣れ親しむ印刷を、違う観点から見たり考えたりする催しです。常識や固定観念を捨て、普段の仕事では絶対にやらないような面白い実験・くだらない実験に印青連の仲間が挑み、それら成果物を会場で展示したりワークショップで一緒に体験できたりします。実験室を通じて印刷機や加工機の可能性を探り、挑戦する側と見る側の双方のクリエーティブ魂に火を付けることが狙いです」

――2年前は『文化祭』でした

「『文化祭は、誰にでも分かるような〝印刷の楽しさ〟を追求することで『印刷とは何か』を社会に分かりやすく伝える、いわゆる『外向け』の催しでした。〝3K〟のイメージを払しょくして就職活動中の学生に印刷産業に目を向けてもらう・父ちゃんはこんな仕事をしているんだと子供に伝える企画や展示に対して、今回の実験室は『内向け』。文化祭からさらにもう一歩踏み込み、印刷を知らない人ではなく印刷従事者を対象としたものになっています」

――企画の背景について

「当初は方向性がなかなか定まらなかったのですが、あるとき今回の実行委員長を務める篠原慶丞さん㈲篠原紙工）が発した『実験って面白くない？』の一言が発端になりました。一時〝印青連ラボ〟という名称も挙がりましたが、ラボだとどこかスタイリッシュでクール路線な印象。そうではなく、われわれが目指すのはあくまで実験室。博士と助手、白衣、三角フラスコ、爆発――といった泥臭さもはらんだ、キレイやカッコいいとはまた別のモノをイメージしています」

――印青連の歴史にない思い切った挑戦ですね

「茂木徳久会長が日頃仰るように、印青連の活動は点で終わらせず線、面へと発展させる楽しさがあります。われわれは13年に〝日本一ふざけた企業〟を標ぼうする、バーグハンバーグ代表のシモダテツヤ氏を招いて、常識や固定観念常識を捨て〝振り切ったバカ〟で革新的な企業プロモーションを実践する同社の神髄を学ぶ機会を得ました。その『点』も、間違いなく実験室という『面』につながっています」

『キレイだな』『すごいな』も大事ですが、同じくらい『バカだな』『変なことしているな』も大事。丸くなるな、星になれ、というサッポロビールのフレーズではないですが、きれいに丸の中に収め小さくまとまるのではなく、個性や興味を大事にしたい。その尖った集合体が星となり、それが実験室となればいいなと思っています」

――当日の展示内容や実験イベントをいくつか

「展示物は▽断裁機で紙以外にどんなものが切れるか▽ティッシュで製本▽紙以外のものにタック加工▽紙を綱にして綱引き▽3億円の札束を模した展示、など。変わった名刺や年賀状も展示しています。一方体験コーナーでは、透明な材料での製本、人工衛星のソーラーパネルにも応用された展開と収納に優れる『ミウラ折り』、調味料や香料インキを用いたガリ版など。これらはごく一部です」

――シール・ラベル業界にはどういった部分に注目してほしいですか

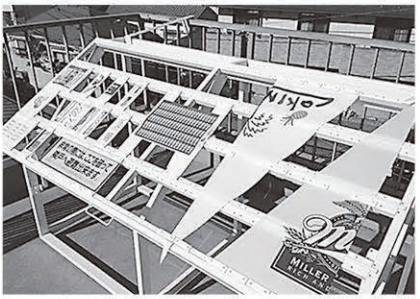
「プリンタのようなオンデマンド印刷が領域を拡大しつつある今、加工機としてのラベル印刷機の可能性にもご注目いただければと思っています。印刷関連の11団体が集う組織にあり、また多彩な作品が並ぶ実験室のような試みを通じて、われわれラベル業界の加工の深さ、応用力をあらためて実感しています。自社のラベル印刷機を駆使して、時には乱用していろんなものを表現した作品から生きの残るためのヒントを、そして会場に並ぶバカバカしい作品も含め日々の常識から離れて純粋にものづくりを楽しんでいるつくり手の熱量を感じてもらいたい。来場者を巻き込んで、印刷産業を元気づけるイベントになればと願っています」

――最後にPRを

「印刷業界に従事していますと言ったとき『今厳しいですよね』と業界外の人にも心配される時代。でも『そうじゃない、それだけじゃないんだ』と信じたい自分もどこかにいます。クライアントの求めるキレイを追求する責務も当然ありますが、印刷の持ち味、レタープレスの特徴など『これはこれの良さがある』というモノを作り手としてしっかり持っていたい。じゃあ何を以てそれを信じていけるのかという問いに対して、こういうことなんじゃないかという何かしらの『答え』が、きっと印刷実験室にあるのではないかと思っています」

「会場は、実験室の名にふさわしい科学技術館です。日々の印刷とは異なる非日常的な作品から、きっとビジネスヒントの一端や印刷の可能性を感じていただけると思います。ご来場お待ちしています」

◇◇◇



曝露実験を経た印刷物も公開

印青連「印刷実験室」

▽日時…1月24日㈯午前11時～午後4時▽場所…科学技術館（東京都千代田区北の丸公園）▽入場…無料▽公式HP…http://takano10.wix.com/inseirenjikkenshitsu